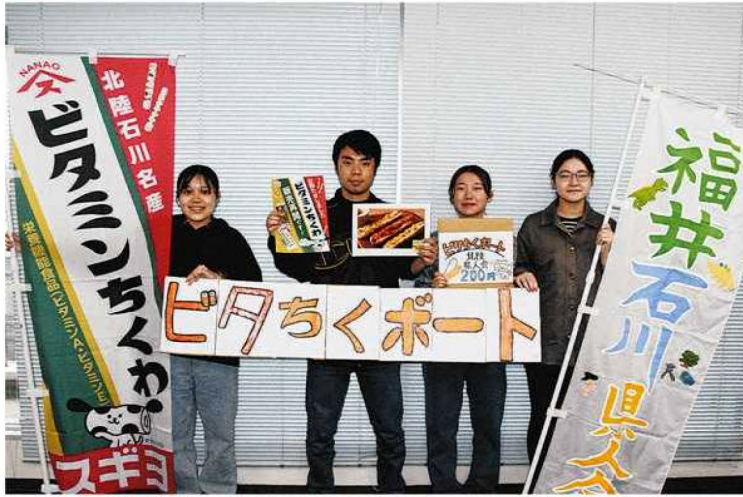


## 日福大大学祭で被災地応援

### 北陸出身学生ら 名物販売、寄付



能登の支援ブースをPRする学生ら＝美浜町の日本福祉大で

能登半島地震の被災地を支援しようと、美浜町の日本福祉大で2日に開かれる大学祭で、北陸出身の学生らが石川県のメーカーの食品を売るブースを出し、売り上げの一部を被災地に寄付する。

北陸4県の出身学生らで

能登半島地震の被災地をつくる北陸県人会が企画。多くの学生が帰省中に大きな揺れに遭い、中には能登半島の出身者もいる。販売するのは、同県七尾市のスギヨの名物「ピタミンちくわ」。同社の広報が大学の卒業生という縁から実現した。学生らは試作を

重ね、ツナや、めんたいこマヨネーズ、チーズをちくわにのせた商品に。濃厚な味わいの中にも、ちくわの風味がしっかりと感じられる一品に仕上げた。

会長で福井県出身の社会福祉学部2年、見好美樹さんは「自分も揺れを経験し、報道では被災地のひどい状況を見た。少しでも力になれば」と話している。

同大の災害ボランティアセンターもブースを出す。センターの学生らは、春先に七尾市や石川県輪島市などで支援物資搬入や福祉避難所の手伝いなどをした。夏にも同市で困りごとの聞き取り調査をした。

ブースでは現地の写真や活動内容、活動を通じて感じたことなどを報告する。センターの同学部2年、若山知優さんは「できることは身近にあることを知ってほしい」と語る。

(石井豪)